

## 大切なポイント

### STEP 1

- ◎「マルチ・ステークホルダー・プロセスの基本条件」を、しっかり確認・共有しましょう。  
※「マルチ・ステークホルダー・プロセスの基本条件」とは
  - ①すべての参加者は、共有する課題の解決や理想の実現のために、主体的・積極的に参画する。(主体的な参画)
  - ②すべての参加者は対等・平等であり、互いに敬意をもって接する。(互尊互敬)
  - ③すべての参加者は、自らの属する組織や分野の価値や利益だけでなく、より良い社会や未来の実現のために発言・判断・行動し、属する組織や分野にも働きかける。(柔軟な代表)
  - ④すべての参加者は、既存のしくみや手法の限界を率直に認め、多様な主体の協働によって創造される価値を信じる。(協働による創造)
  - ⑤すべての参加者は、成果をより良いものにするために、新しい参加者を歓迎する。(開かれたコミュニティ)

### STEP 2

- ◎よくばりすぎず、小さなきっかけづくりから、動き出しましょう。  
多様な分野から団体が集まれば、それぞれの価値や目標も多様です。協働を深め、広げ、続けようという信頼関係を築くには、まず小さなきっかけづくりから動き出しましょう。
- ◎信頼や協力は、具体的な行動を通じて育てるのが理想的。しかし一緒に動き出すための信頼や協力を引き出すために、まず、お互いの状況や考えを理解し合う時間を、しっかりととりましょう。平時は「急がば回れ」も大切です。
- ◎まったく譲らず、自分の主張通りでなければ参加しない、といった姿勢では、良い協働は生まれません。協働で共通の目標を実現するためには、従来の枠組みを超えた協力が不可欠です。自分(たち)の価値や制約を押し通そうとするのではなく、相手に事情や希望を伝えたいうえで、新しいしくみを一緒につくりましょう。  
また、原案に反対するときは、それに代わる対案を提案しましょう。

### STEP 3

- ◎協働や連携は、まだ参加していない人たちからは、不安や疑問を抱かれてしまうもの。どんな取り組みを、どう進めていくのか。それがどんな成果を地域や社会にもたらすのか。そして、地域や社会の人たちに、どう参加・協力してほしいのかについて、着手の段階から積極的に発信・広報しましょう。
- ◎協働を通じて、自らを変化・進化させましょう。行政も企業も団体も、社会の変化の中で、変わらずに、進化せずにいることは許されません。協働を通じて学んだこと・気付いたことを、自分たちのあり方や進め方に積極的に取り入れましょう。

### 考え方や進め方の調整が大変…

- 多様な主体の協働は、価値や経緯の共有や日程の設定まで、調整が本当に大変！ すべての参加者は、調整役を担ってくださる方への敬意を忘れず、協働が進むためにどのような協力が可能か、積極的に提案しあいましょう。

